

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100493		
法人名	有限会社 大塚台夕月		
事業所名	グループホーム大塚台		
所在地	宮崎県宮崎市大塚台東1丁目1番地4		
自己評価作成日	平成29年12月12日	評価結果市町村受理日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon:true&JukyosyoCd=4590100493-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①運営推進会議では、ご家族はもちろん、地域包括支援センターの職員・地域住民の参加声掛けを行い、積極的な近況報告や意見交換が行えるよう取り組んでおり、常時5～6名の参加がある。又、避難訓練にもご家族・地域住民の参加協力をお願いし、火災を想定した訓練を行うことができた。隣の団地駐車場を、災害時の避難場所として利用できるよう自治会から交渉して頂いたり、訓練の改善点をアドバイスして頂いたり、事業所を支えて下さる方が増えてきている。②28年8月から開かれた、大塚台地区のオレンジカフェに、当ホームから、毎月2名ほど参加している。参加のたびに地域の高齢者や民生委員の方たちが暖かく迎えて下さり、利用者も自然と笑顔が出て、楽しんでいる。又、毎月傾聴ボランティア・囲碁ボランティアとして2～3名の地域住民の方が訪問して下さり、利用者の声に耳を傾けて下さったり、囲碁の相手をして下さっている。最近では、少しずつ顔見知りの関係になってきて、利用者も楽しみにされている。③利用者の尊厳を大切に、出来ることは自身でしていただくよう、自立支援を重視したケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲は住宅に囲まれている環境から、自治会に入会していることをはじめ地域の活動にも関わり、地域密着型のホームとしての役割を担っている。ホーム内のケアにおいても、個人個人の状況を細かく把握することに努め、排せつ介助の改善や精神面での支援を図ることで、心身ともに落ち着いた生活を送れるように職員全員で取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会の場で、理念の復唱をしたり、施設内の数力所に理念を掲示するなどして、常に理念を共有して実践できるよう、職員全体で意識している。	職員自身が「家族を入れたいくなるような施設」を目標に理念を作成し、利用者により良いケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年から、地域のオレンジカフェに月に1度参加している。カフェには、民生委員や福祉協力委員の方、又近隣の高齢者などが来られているので、とてもいい交流の場になっている。又、近所へ散歩へ出ると、気軽に話しかけて下さり、住民とのつながりも増えてきている。	自治会に加入し、管理者を中心に地域の活動に役割を持って参加するほか、地域のオレンジカフェへの参加や民生委員なども消防計画など協力体制を整えている。ホームには囲碁や傾聴ボランティアなどの来訪も年々増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、事業所での行事に地域の方をお招きし、利用者との関わりを持つことで、認知症の理解を発信できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、近隣住民の方や地域包括支援センターの職員に出席していただき、取組状況などを報告している。消防に関する議題では、近隣住民から積極的な意見を頂いた。	家族や民生委員をはじめとする近隣住民も熱心に関わって、運営推進会議を開催している。そこで出た消防訓練の意見や計画などは回覧板などを通じて、地域にも会議内容の周知を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で直面した課題や、疑問に思ったことなどは、電話で問い合わせたり、直接窓口に出向き、問題解決に向けて取り組んでいる。	市主催の勉強会への参加をはじめ、管理者を中心に直接市の窓口で疑問点の解決を図るなど、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通して、安易な鍵の施錠や、ベッド柵の使用、言葉での拘束などを職員全員が理解している。又、センサーマット使用の希望が職員から上がったが、話し合いを重ね、センサーなどは使用せず、抑圧感のない生活を重視している。	市主催の勉強会に参加している。その他事業所内でも利用者の心身の状況把握に職員全体で努めることで、見守りをはじめとするケアを充実させ、身体拘束を行わない取組がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に出席したり、事業所内での勉強会を通して高齢者虐待の知識を深めている。又、虐待に繋がりそうな言動が見られた際は、その場で注意し合えるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会は積極的に行っていないが、現在後見人制度の申請中の方がおられるため、関係書類の提出等、積極的に協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の内容に変更が起きた際は、速やかに変更点の説明と同意を頂いている。又、説明時には、気軽に質問や要望を聞き出せるような関係作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外でも、個別に意見や要望を聞き出せるように、担当者会議にはなるべく管理者も同席するようにしている。面会時にも、ご家族が気軽に意見を言えるように、日頃からの連絡を密にしている。	ホーム玄関には家族とやり取りする個別の引き出しを設置し、カンファレンスの案内や近況報告・意見交換に活用している。面会時には意見を引き出せるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では、職員からの提案や意見を聞くように努めている。その他にも、普段の現場の中での気づきやアイデアを聞きだせるよう、職員とのコミュニケーションを大事にしている。又、職員から相談を受ける際は、個室できちんと時間をとり、話を聞けるよう努めている。	毎月1回、職員会議を行っている。管理者を中心にいろいろな意見を出し合い、その意見をホームでのケアの実践に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、意欲や向上心を持って働けるように、勤務状況などを把握し、職員処遇への反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会では、管理者がその時必要としている内容を検討して勉強会を設けている。又、事業所で必要とされる外部の研修会には、適任者に受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域包括支援センター主催の研修役員をしているため、近隣施設の管理者やケアマネジャーと定期的に情報交換をしている。事業所内で行き詰った問題も、互いに相談し合える関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人と直接面談し、安心して生活できるよう顔なじみの関係を作っている。その時に、ご本人の様子や困っている事などを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前・入所時の面談で、なるべく多くの情報を聞きとれるよう、努力している。又、家族が困り事を話しやすい環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時の相談や、本人との面談で不適當の判断をすることもあり、他サービス利用を進める事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒にお茶を飲んで談笑したり、時には利用者からアドバイスを頂くこともある。又、個々の能力に応じて一緒に洗濯やお膳の片づけなどを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご家族とゆっくりお話しが出来るように配慮している。又、今年初めてご家族との食事会を計画し、お手伝いを頂きながらゆっくりとした食事会をすることができた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所だったご友人が訪ねてこられる時があるため、居室でゆっくりとお話ができるよう支援している。又、ご家族の協力のもとで、昔からの行きつけの美容室に通われてる方もいる。	家族の協力を得てかかりつけの歯科や飲食店、美容室などへの外出を行い、なじみのある環境との関わりが途切れることないように、支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が、一緒に会話したり散歩に行けるように支援している。又、日々の体操やレクリエーションの場でも交流の場となるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、病院や施設の介護支援専門員に状況を伺うことや、面会を行った。家族からの挨拶や手紙に応じて相談を受けた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に希望や意向の情報収集をしている。日々のケアで、困難なケースは、センター方式を活用して検討している。	職員全体で各個人のモニタリングを行い、職員会議で検討も重ねているが、ホームに入居後の個別支援への反映が少ない。	情報収集を活用しアセスメントの充実を図ることで、その人らしい暮らしが実現できるよう職員全体で取り組み、個別の支援や外出するなど活動の幅が広がる生活が送れるようになることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前利用事業所や、担当ケアマネジャー、ご本人・ご家族に伺い、情報の把握に努めている。入所時は、家族にセンター方式の記入をお願いし、より詳細な情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康面、心身状況の記録を行い、重要な事や大きな変化は、申し送り帳に記録して、勤務時に職員全員で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特に終末期においては、記録や、スタッフからの状況把握と共に、主治医や家族の参加を求め、より状況に応じたケア内容を模索し、介護計画を作成した。	職員全体でモニタリングを実施している。その結果を職員会議を通じて、次の介護計画に職員全体の意見を反映させることで、より良いケアの実践に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録簿に、各サービス計画書を付け、プランに応じた記録をしている。毎月のスタッフ会議でケースカンファレンスを行い、又、3か月ごとの見直し時にスタッフ一人ひとりが、気づきや、提案などを書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に応じて、近所の美容室を定期的に利用されたり、地域のオレンジカフェに参加したりしている。又、毎月の傾聴ボランティア・囲碁のボランティアも楽しみにされている方が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容室を定期的に利用している利用者がおり、美容師さんと顔なじみの関係が出来てきている。又、毎月近所のボランティアの方々が来られて囲碁やお話するのを楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの、主治医の継続を基本としているが、ご家族や本人の希望で現在は全員が事業所協力医を利用している。主治医変更の際には、必ず情報提供を行い、なるべくこれまでの処方や治療を継続できるよう努めている。	現在は、本人や家族の意向としてホームの協力医院の往診を受けている。本人や家族の意向に合わせ専門医への受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックや、観察の中から利用者の状況を把握し、細かな状態の変化に気付くように努めている。また、変化に気付いた際は申し送りなどで看護師に報告する体制に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった際は、なるべく当日中に情報提供書を送るようにし、病院との連携に努めている。又、看護師やケースワーカーと面談し、早期退院に向けての受け入れ体制に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、終末期に向けた方針や看取り指針の説明を行っている。重度化した際には主治医との連携を密にし、ご家族に段階ごとに説明、意向の確認を行っている。又、職員もチームとなって、変化ごとに確認・話し合いを行った。	入居前や状態変化時には、主治医を含めその都度話し合いを重ねて、書面での同意などを得ている。また、施設職員に対しても医師に依頼し、ホーム内での終末期の勉強会などを開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は交代で応急処置の研修を受講し、緊急時の対応を日頃から意識して業務に当たっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は、近隣住民やご家族の協力をお願いして、防災訓練を実施している。近隣の団地の駐車場を避難場所として利用させていただくことになっている。又、職員の消火訓練や避難訓練も定期的に行っている。	年2回の防災訓練では地域の協力も得られ実施している。また、訓練の改善についても地域住民とも意見を交わし、その内容は回覧板で地域住民にも周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや、態度には全職員が気を付けており、気づいた時には職員間でも注意し合えるように努めている。又、トイレや居室に入る時にはドアのノックを必ず行い、プライバシーの確保に努めている。	言葉遣いでの人格の尊重をはじめ、排せつや入浴の場面では自尊心にも十分に配慮できるように、トイレでプライバシーを損ねない工夫や、ケアの実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日頃から利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の表情や反応から意思表示を汲み取れるよう支援している。体操や入浴も、その日の体調や気分に合わせて実施できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の場である事を、職員全員が理解しているため、なるべく一人ひとりのペースに合わせて生活できるように支援している。その日の体調に合わせて午睡をしたり、居室で食事を摂っていただいたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に近くの美容室に行き、カラーやカットを楽しまれたり、毎日お化粧をきれいにされてる方もいる。又、その日に着る衣類は基本的に自身で決めて頂くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を工夫し、楽しく摂取できるような色どり・盛り付けに努めている。時に、利用者からのリクエストメニューにしたりと、食べる楽しみを持っていただけるように努めている。又、能力に応じて、箸並べや下膳、テーブル拭きをお願いしている。	利用者個人の能力に合わせて盛り付けなどの作業を一緒に行っている。菜園で育った野菜を利用者と共に収穫し調理に使うなど、家庭的な雰囲気の中で利用者と職員が食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定や、個々の運動量に合わせて食事量を配慮している。又、夏祭りや食事会では、ご家族も一緒に食事を摂っていただき、食べる楽しみを持っていただいた。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行っている。個々に応じて、職員が義歯を洗浄したり、仕上げ磨きをするなどして、口腔内の清潔が保てるように努めている。又、体操の時間に口腔体操を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけないように、日中はなるべく布パンツを着用していただき、個々のタイミングに合わせてトイレ誘導している。又、失敗があった時でも周囲に気づかれないように配慮している。	可能な限り、布パンツの着用とトイレでの排せつを基本としている。パッドの使用についても排せつパターンをより細かく把握することで、使用枚数の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて、乳製品を摂っていただいたり、水分摂取を促したりして、便秘予防に努めている。又、毎朝の体操や歩行訓練を通して運動不足にならないよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大体の入浴日は決めているが、本人のその日の体調や希望を優先できるよう取り組んでいる。その日の体調で入りたくない日には、足浴や清拭をするなどして、清潔保持に努めている。	夏季・冬季で基本となる入浴日や回数を設けているが、可能な限り個人の希望に合わせた入浴時間を設けている。また、足浴を行う事で精神的にも落ち着いて過ごせるケアの実践に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のその日の状態を見て、体調のすぐれない日には、日中も居室で静かに休んでいただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を職員全員がいつでも見れる所に保管している。又、処方箋が新しくなった際は申し送り帳に書くなどして、職員全員が薬の目的や副作用を把握できるようにしている。毎食後の内服は1回分ずつまとめて、誤薬防止に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて、お盆拭きやカーテンの開け閉めなどの日常のお手伝いをしていただいている。又、牛乳や乳酸菌飲料を個別に配達注文したり、食事とは別に食べたいものがある方には、近くのスーパーに買物に行ってお部屋で食べられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な全体での外出支援は、出来ていないが、ご家族に協力をお願いして、お墓参りや行きつけの理容室に行けている。	近隣の商業施設への外出ほか、帰宅願望のある方への気分転換など、家族の協力も得ながら日常的な買い物、散歩を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況に合わせて、なるべくお金を自己管理をしていただいている。難しくなってきた方でも、買い物や美容室などの際に支払いが自身でできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から手紙が届いたり、お電話が来た時はすぐに本人につないで、やり取りできるように支援している。又、利用者が書いた手紙も出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、温度計・湿度計を設置し、必要に応じてエアコンや加湿器を使用している。又、ホールは日当たりが良く、昼間は気の合う利用者同士が日向ぼっこをされている。掲示板には季節感を取り入れた花や飾りを取り入れている。	日当たりが良く、温かい共有空間で利用者は過ごしている。共同のトイレには利用者から出た意見を取り入れるなどの工夫を行っている。廊下には写真や利用者作成の掲示物が有り、四季を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、食卓の他に、ソファを3か所に設置しており、テレビを見たり、おしゃべりをしたりと、利用者一人ひとりが思い思いに過ごせるよう家具を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力の下、使い慣れたテーブルや椅子、棚、テレビなどを持ち込んでいただき、居室で居心地良く過ごせるよう、環境づくりに努めている。	各居室にはなじみのある家財の使用をはじめ、各々の身体や精神面に合わせた配慮が有り、落ち着いた雰囲気与生活できる支援がなされている。家族と一緒にレイアウトしたり居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は個々に応じて、ベッドの高さを調整したり、家具の位置や向きを工夫している。夜間のみポータブルトイレを使用されている利用者は、日中は外に出して、少しでも動線上の障害物を少なくするよう努めている。		